3猿は扇子を持って踊っています

頭に馬面？馬頭観音です

令和6年1月度　佐倉路地裏探検隊探索

（桑橋・睦・島田台・行々林・桑納・島田・米本等地区）
令和6年1月17日（水）

佐倉路地裏探検隊

１．小字

１）桑橋（そうのはし）；

印旛放水路(新川）右岸の丘陵地に位置する
【近世・桑橋村】；江戸期～明治22年の村名。下総國千葉郡のうち。貞享元年(1684）から久喜藩領（米津政武が田盛の跡を引継いだ際、政武は15,000石のうち3000石を弟田賢に分与した為12,00石を領し、後に埼玉郡・印旛郡他に領地替えとなり久喜に居住した為**久喜藩**が誕生）、寛政10年（1798）から久喜藩主米津通政は所領のうち武蔵国内6400余石が出羽国村山郡内に移され、本人は長瀞に住んでいた為**長瀞藩**誕生。村高は「元禄郷帳」「天保郷帳」「旧高旧領」ともに119石。明治6年千葉県に属す。明治22年睦村の大字となる

【近代・桑橋】；明治22年～現在の村名。はじめ睦村、昭和29年八千代町、同42年から八千代市の大字。明治24年の戸数42・人口282・馬27、同45年桑橋養蚕組合が設立、昭和36年の世帯数83・人口489

２）睦（むつみ）；

【近代・睦村】；明治22～昭和29年の千葉郡の自治体名。**桑納（そうのう）・麦丸（むぎまる）・桑橋（くわのはし）・吉橋・島田・神久保（いものくぼ）・小池・真木野・佐山・平戸の10ヶ村と神保新田のうち字島田台が合併して成立**。旧村名を継承した10大字に島田台を加えて11大字を編成。役場は桑納におかれた。村名は、新村民の共同親睦の意義を評して命名。明治24年の戸数497・人口3418・馬302・船12。大正8年睦村真木野・神久保・島田台養豚組合、睦村塙(はなわ)養豚組合が設立され、養豚が盛んとなった。明治33年村立睦農業補習学校創立、修業年限3年、創立時の教員1人・生徒数44人・1ヶ年の授業領9円。同41年東尋常小学校・塙尋常小学校を合併して睦尋常小学校が成立。同45年高等科を併置して睦尋常高等小学校となる。昭和29年八千代町の一部となる。昭和29年の世帯数696・人口4206

３）嶋田；

【中世・島田村】；鎌倉期から見える村名。下総国臼井荘神保郷のうち、元徳3年（1331）9月4日付千葉胤貞譲状に「同国臼井庄嶋田村内三郎名柒段・在家壱宇」とあり、胤貞から大阿闍梨日祐（胤貞養子・中山法華経寺3世）に中山堂免として譲与された。以後当所領は中山本妙寺・法華寺領として日祐・日尊・日せんと伝領された。応永4年（1397）12月23日付足利氏満書状や同27年（1420）12月21日付千葉兼胤安堵状には「臼井庄神保郷・・・嶋田・平戸・真木野等村々田畑在家」と見え、鎌倉公方・下野国守護の安堵を得た事が知られる。文禄3年（1594）7月20日付法華経寺四院主連署回状には「同神保　島田　福仙房」とある

【近世　嶋田村】；江戸期～明治22年の村名。下総國千葉郡のうち。**初め旗本兼松氏領、享保頃（1716～1736）から幕府領**。村高は「元禄郷帳」113石余「天保郷帳」124石余「旧高旧領」123石余。慶長7年（1602）に検地が行われる。佐倉道大和田宿の助郷村。享保10年（1725）将軍吉宗による小金牧の鹿狩りに際し12人の勢子人足を差し出す。家数・人数は元文2年　37・216、天明5年（1785）41・205。天明年間（1781～1789）の印旛沼開削工事では、名主治郎兵衛が惣深新田名主平左衛門と共に工事の目論見を提出。明治6年千葉県に属す。明治22年睦村の大字となる

【近代　嶋田】；明治22年～現在の大字名。初め睦、昭和29年八千代町、同42年からは八千代市の大字名。明治24年の戸数39・人口263・馬26・船１。総和36年の世帯数49・人口271

4）島田台；

【近代　嶋田台】；明治22から現在の大字名。はじめ睦村、昭和29年八千代町、手話42年からは八千代市の大字名。もとは、神保新田の一部。地名は嶋田が立地する台地が開かれた事に由来して嶋田台に。明治２４年の戸数４６・人口224・馬８

5）桑納（かんのう）；印旛放水路（新川）右岸に位置する

【近世　桑納村】江戸期～明治22年の村名。下総國千葉郡のうち。旗本太田2氏の相給。村高は「元禄郷帳」63石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に172石余。佐倉道大和田宿の助郷村。明治6年千葉県に属す。明治22年睦村の大字となる

【近代　桑納】

明治22年～現在の大字名。初め29年八千代町、昭和542年からは八千代市の大字。睦村の役場が置かれた。明治24年の戸数25・人口182・馬18。昭和36年の世帯数31・人口177

6）**吉橋**；印旛放水路(新川）右岸の丘陵地に位置する

【中世】吉橋郷；鎌倉期～室町期に見る郷名。下総国のうち。下総国国衛領(こくが領）の一つ（平成中期以降の公領＝荘園）として香取社遷宮の用途を賦課された(建久8年/1197,寛元元年/1243,宝治年間/1247～1248、文永年間/1264～1274、南北朝期の康永4年/1345に実施された古文書存在）當郷の地頭職は代々千葉氏嫡流と謂れている

【近世）吉橋村；江戸期～明治22年の村名。下総国千葉郷のうち。**旗本川村氏・小栗氏・清野氏の相給**（※元禄元年(1698）川村氏拝領高1000石、吉橋村尾崎・寺台での知行高192石程、小栗氏拝領高530石、花輪での知行高117石程、清野氏拝領高120石＋80表、高本での知行高は68石程。拝領高と吉橋での知行高との差は別の地区で拝領していた事になります）村高は「元禄郷帳」376石余、「天保郷帳」378石余、「旧高旧領]376石余。佐倉道大和田宿の助郷村。弘化3年/1846川村氏分の家数55・人数356。用水は溜井(ためい。貯水池の意）1カ所でしたが不足なので隣の坪井から引水。水代として年に米2俵を払った。明治22年睦（むつみ)村の大字となる

【近代】吉橋；明治22年～現在の大字。はじめ睦村、昭和29年八千代町、昭和42年～八千代市の大字となる明治24年の戸数118人口771・馬92。明治45年吉橋陽さん組合が設立。昭和36年の世帯数158・人口1032。昭和39年最初の町営20戸完成。昭和46年吉橋工業団地造成工事完成。昭和55年八千代西高校開校

７）**村上；**印旛放水路(新川）左岸の丘陵地上に位置する

【古代　村神郷】平安期に見える郷名。**下総國印旛郷1郷の一つ**。（※律令時代で5畿7道=国府は市川市国府台＝の一つ**東海道**＝安房国が分かれ**下総国**・上総国・常陸国・他伊勢国等13国＝11郷＝葛飾・千葉・**印旛**・匝瑳・相馬・猿島・結城・岡田・海上・香取・埴生）印旛沼の西限にあたる現在の八千代市村上にあたる。村上遺跡群と強い関係があり、新川の東側の台地には縄文時代からの遺跡が広がっている。縄文時代には村上入口遺跡・神野貝塚、弥生時代には大塚遺跡・おおびた遺跡、古墳騏には保品栗谷古墳群・平戸台古墳群などがある。歴史時代には名主山遺跡・宮内遺跡・平戸口遺跡等もある。萱田地区の竪穴住居跡から墨書人面土器が2個出土。1個の茶碗外側には「村神郷丈部国依甘魚」の文字と人の顔が浮かび平安初期のものと考えられる。他の1個は奈良期のものと考えられ「丈部乙刀自女形代」の文字が読み取れる。国依と乙刀自女という名の男女の病気や不安な世情を追放する為に茶碗に悪霊を描き自分の住所・氏名を記入し祈願したものと考えられる。

【近世　村上村】；江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。新田部は幕府領。村高は「元禄郷帳」604石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに722石余。延享3年（１７４７）明細帳いよれば、家数108・馬64。年貢米は船橋に津出し、小物成は御林下苅銭・百姓山銭・稲干場銭等、郷蔵１・溜池３，上高野村の入会芝野1カ所。明治22年阿蘇村の大字となる

【近代　村上】；明治22年から現在の大字名

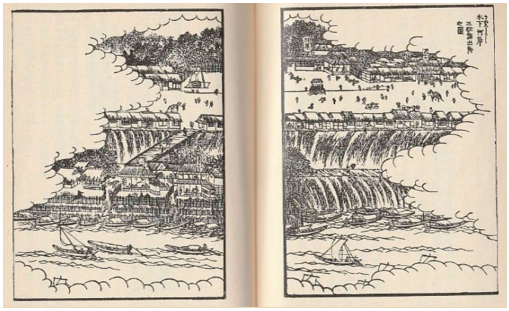
初め阿蘇村、昭和29年八千代町、昭和42年から八千代市の大字。明治24年戸数148・人口941・馬64。大正期に阿蘇無の生産が始まった。昭和51年計画人口約17,000人の村上団地に入居開始

※参考　行々林（おどろばやし・船橋市鈴見町の旧名）；神崎川に注ぐ小河川両側に開析した谷に位置する。地名の由来は、荊棘（おどろ、いばらのとげ）の茂る地の意とか、「トドロ」に激しい水音に起因すると謂れています

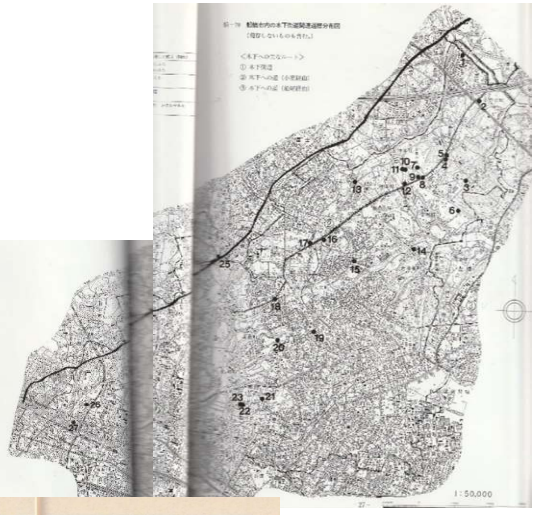
【近世　行々林村】；江戸期～明治22年の村名。下総国千葉郡のうち。寛文元年（1661）佐倉藩領。「旧高旧領」では旗本鈴木氏と与力相給。村高は「元禄郷帳」86石余、「天保郷帳」・「旧高旧領」共に101石余。慶應2年（1866）戸数27・人口167、明治6年千葉県に属す。明治22年豊富村の大字

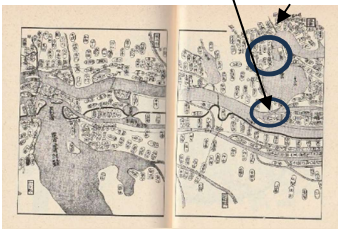
【近代　行々林】；明治22年～昭和29年の大字名。初め豊富村、昭和29年から船橋市の大字。明治22年の田21.1町・畑21.8町・山林54.8町・宅地2.2町・雑種地2.5町・原野1.1町。明治24年戸数28・人口175・馬15、昭和28年の世帯数38・人口227。**昭和30年1月1日　鈴身町となる**

２．木下街道：江戸時代、江戸川筋の行徳河岸と下利根川筋の木下河岸を結んだ脇往還で、現在の県道59号線（市川印西線に相当。市川市の国道14号線との交差点である鬼越2丁目交差点を起点とし、印西市中の口の国道356号線の交差点である中ノ口交差点を終点とする）にあたり、木下街道は江戸から下総常陸に至る道筋として、特に下利根川方面に直行出来る最短路として貴重な往還道であった。全長9里(36キロ）で途中江戸時代には行徳・八幡・鎌ヶ谷・白井・大森・木下に宿場が置かれた。街道の両端の行徳と木下はそれぞれ江戸川と下利根川の河岸場で、中利根川の関宿経由で両川が結ばれています。江戸湾に注ぐ旧利根川と常陸川・小貝川・鬼怒川の諸川を合流する利根川下流との間には木下街道・さかな街道・なま道等いろいろな街道が存在します。江戸後期、木下河岸の押戸屋勘右衛門の著書では寛永8年（1631）秋、街道の起点である行徳と木下の船着き場をつなぐ道筋として街道が整備され6カ所の宿組合が定められたと記載されています。木下街道は成立当初、木下河岸対岸の布川・布佐間を水戸街道が通っていた事から往還道として発展可能性を秘めていたが、水戸街道が取手宿経由に道筋を変えていた為、公路としての性格がやや弱まった。江戸から下利根川応援最短路として、高岡・麻生・小見川・銚子・鹿島・香取・息栖への往還、その他水戸・奥州への脇往還来として利用され、人馬の継立が行われた



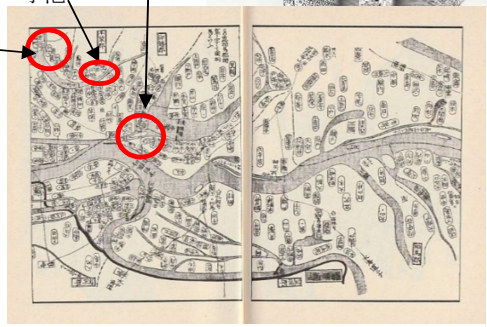
「利根川図誌」　”木下河岸”





「利根川図誌」

”利根川全図”



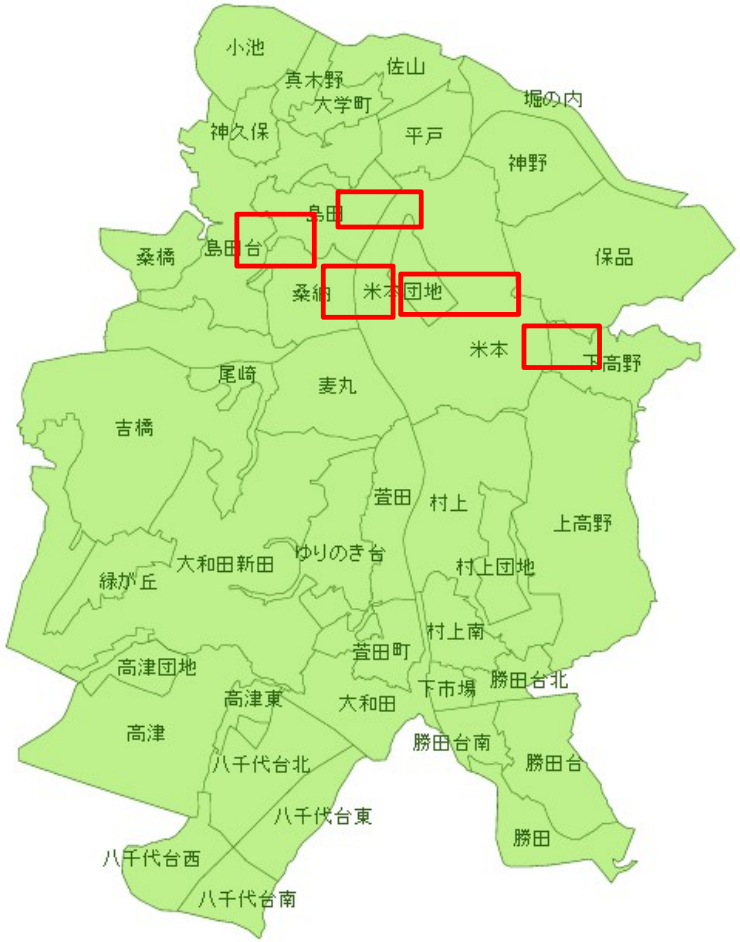
「利根川図誌」

”利根川全図”

」

３．八千代市全図と大字

【大字図】



４．庚申塔と馬頭観音の見方

１．庚申講とは；庚申信仰は道教の「三尸説（さんしせつ）」に由来します。これは”60日毎に巡ってくる「庚申(かおえさる)の日に、人の体内にいる三尸という虫が、人の寝るのを待って天の司命（しめい）という神に、その者が60日間に犯した罪を報告すると、司命はそれに基づきその者の寿命を裁定するという信仰で、その為庚申の夜は色欲を避ける等精進し、一晩を寝ずに過ごす事により三尸の上空を防ぐという物。これが平安時代の貴族の間に広まり、それに仏教や我が国の古い信仰に結びついて出来た民間信仰である。

2. 庚申塔とは；庚申信仰を造形で表したものが庚申塔です。17世紀後半以降になり盛んに建てられた。庚申塔の基本型は凡そ決まっています。

①江戸中期迄は刻像（江戸後期以降は文字塔が主流となる。明治期以降は庚申塔の造立が急激に減っていきました。形状も光施型＝船型から角柱型そして駒形型に変更して行きます。

②庚申塔には、庚申塔、青面金剛・同像。猿田彦大神・同像（神道系）、帝釈天王（日連宗系）等の刻字・刻像として表現されます。

③形状を見ると、基本的には依頼主が石屋に自分の希望形状を伝え、あとは石屋それぞれの力量によりうまい下手と分かれます。文字の形状や彫の深さ、像の形状も異なってきます。

④刻像の頭部にはどくろ・蛇等が炎髪の間に彫られています。顔は面忿（ふん）怒相の表情）、　手は2肘・4肘・６肘のどれかですが６肘が多いです。それぞれの手には法具として、宝輪(車型の円形のもの）・三叉鉾（さんさほこ）・弓・矢・羂索・数珠・ショケラ(女性の髪を掴んでいます）等等を持っています

⑤上部には太陽と月、それぞれに雲が彫られています（中には梵字も）足元には邪鬼が正面を見たり、右向き、左向き時にチャンチャンコを着ています。勿論ふんどしを締めています）。邪鬼の表情も是非見てください。背中・肩・頭等に青面金剛の足が乗っています。足元には1鶏・２鶏（主に２鶏）。そして猿は1～24ヶ彫られている場合もあります（江の島の庚申塔阿36猿が扇子を持って踊っています）八千代市の島田であ3猿が扇子で踊っています。佐倉市井野でも同様3猿が踊っています）また足元に2～４夜叉が彫られている場合もあります（レアケース。佐倉市飯田では2導師、2夜叉です）

５．馬頭観音とは；

馬頭観音の信仰は、農耕と運搬にもっぱら馬を使役するところからその供養を中心に興ったものです。江戸中期頃から信仰が盛んになり、路傍や馬捨て場などに供養塔が多く建てられました。現在は、それらは地区の指定された場所に一括まとめられて祀られています。

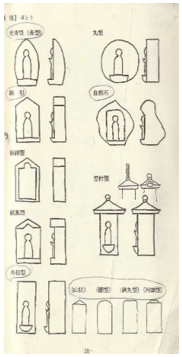
1、馬頭観音と庚申塔の違い；

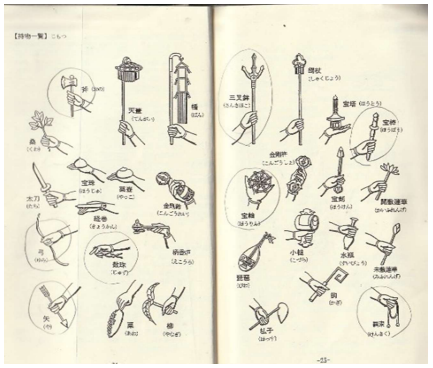
①変わるのは、頭部では、どころ・蛇に代わり馬頭が彫られています(決定的相違点)

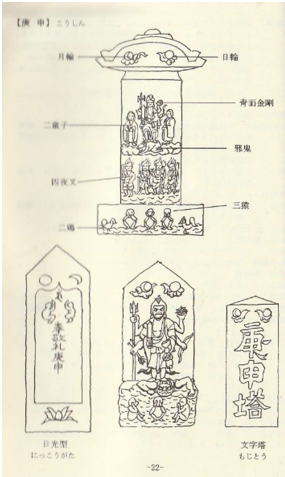
②邪鬼・鶏・三猿等はありません(ここが決定的相違点)

③時に三面馬頭観音も見られます

猿の下半身に何か艶なものが!!







４．散策マップ；

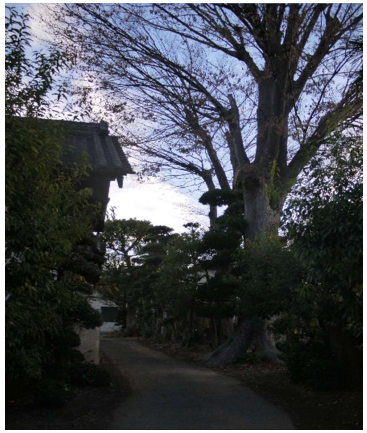
全図

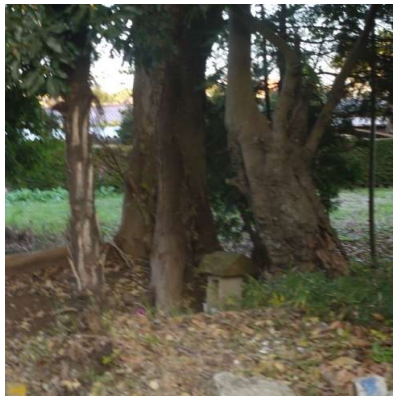
1

3

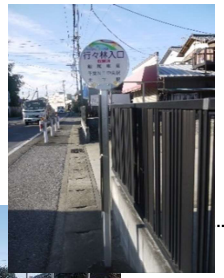
2

５．地区スポット説明

1	2	3	4
東葉高速緑ヶ丘駅	**バス停　桑の橋**	**旧家の蔵と巨木**	**庚申塔3基と馬頭観音1基 （秀明大第一学生寮前）**
			
平成8年4月開業。高架駅です。東葉高速線内接続駅がない為西船橋駅に次いで2番目の平均乗降客は20,525人/日です。近くには形成バラ園があったりしますが、西緑ヶ丘地区開発もあり他駅は乗降客あ現象していますが、この駅だけが増加しています。イオンがあり映画館もあります	小字名は桑橋です。八千代緑ヶ丘駅から小林行コミュニテイバスに乗車（コミュニティバスは行先、時間にて小型・中型・大型と車種が異なるので、団体で利用する場合は必ず車種を確認せねばなりません）し、吉岡・寺台・高本入口を経てこの桑ノ橋バス停になります。吉橋の台地を通り、台地下に一度下り、そして島田台地に上ります。この台地上の最初のバス停が桑ノ橋（そうのはし）バス停になります。恐らく桑橋では読み間違えられる場合が多い為、わざわざ「ノ」を入れたのでは。石仏の刻字では「桑橋」で「ノ」が刻字されたものも見当たりませんし、小字名でも「桑橋」です	バス停近くで幹線に対し左側に旧家の敷地内に巨木が目立ちます。その足元に珍しく亀の子模様のある立派な蔵を見つけました。県道61号線にはなかなか大きな蔵が非常に残念に思っていました。やっと見つけました	幹線道路から1本内側の小さな旧道の交差点の三角地に3基の庚申塔があります。この細い旧道が本来の千葉道だったのでしょう。前側は、正面に　庚申塔　大願成就　左面に文政未年四月吉日日（(1823)　右面には　五良左エ門　と刻字。後ろ左側は　正面に奉参詣百社庚申塔諸願成就　文化9年11月吉日(1812)左面に桑橋村　村中　世話人仁右エ門。後ろ左側には青面金剛像　6肘　２鶏、1邪鬼ですが右頭です(珍しい！）それに3猿。右面には奉造立庚申講中為ニ世安穏也　享保11年（１726）　桒橋村、左面は刻字が読み切れないが多くの刻字が。なおこの3基の石造の先に１基馬頭観音あります。昭和１９年６月８日造立で正面　馬頭　馬頭観世音と刻字

5	6	7	8
巨樹下の道祖神	焼きや「むつみ」の横の 馬頭観音群	秀明学園バス停前庚申群 No1群	秀明学園バス停前庚申群 No2群
			
3基の庚申塔の反対側の大木の下に小さな石社があります。文字が判読出来ませんが、場所から道祖神と読み解きました。意外と八千代市には道祖神が少ないです。小字からこの場所は栗橋字作が谷津と称します 	全部で5基あり、うち1基は刻像mの馬頭観音です。前の道は16号線の島田台交差点と小池交差点とを結ぶ道の一つです。一番右から造立年h、昭和15年、明治26年、昭和17年、寛政9年（1797）、寛永10年（石像・1633）です。寛永10年の刻像の馬頭観音は市内で21番目の古さです。一番古い馬頭観音は享保16年（1731）造立です 	土塁は二つのこぶで出来、それぞれに庚申塔等が並んでいます。手前のこぶには9基の庚申塔あ並んでいます。左側から文化10年（1813）・文政10年(1827)・明治9年（1876）・寛政8年（1796）・寛政8年(1796)・弘化5年（1848）・宝暦年（1759）・蔓延元年（1860）・明治41年（1908）の9基です。年代的に古いのは4番目と5番目の2基で左側は11月吉日、片や11月19日です。共に江戸末期　11代将軍家斉の時です 	次のこぶのうえのは大きな庚申塔です。これの造立は元文5年（1740）、木に凭れている造立は刻像で寛延元年（1748）　そしてこぶの下に1基刻像のものが倒れています。造立年は読み切れませんでした。動かすには重すぎます。若い方是非倒れている石仏を立てて下さい！　　要はこのこぶには3基庚申塔があります

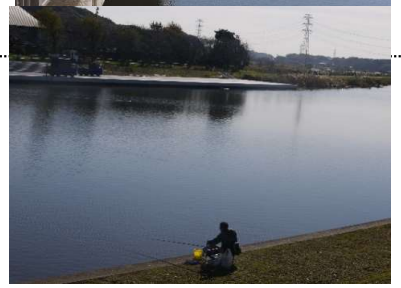
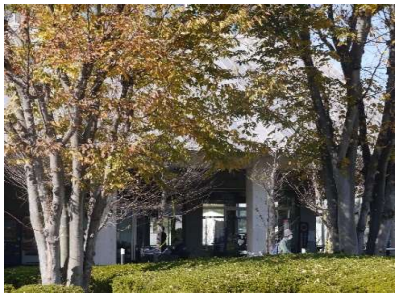
9	10	11	12
安養院	馬頭観音と戒名塔兼道標	木製社殿製造会社	馬頭観音群
熊野山　安養院　で真言宗豊山派安養院で号を熊野山阿弥陀寺と称します。創建は不詳。慶長2年(1597)9月開基。初代住職長栄の安永3年(1774)入寂。吉橋大師の68番と下総4郡88カ所の2番霊場になります。本堂は間口7.5間、奥行き5.5間、庫裡間口7.5間・奥行4間、境内664坪の大寺でした。火災で消失し、現在は大師堂お新築の阿弥陀堂が新築されています 	後側の石塔は髭文字の道標えす。 正面の真中には髭文字で　南無妙法蓮華経を浄心信士　右側に　北　舩尾ヨリ大森安食道　左側に　安静三辰(1856)10月7日　右面には　西　金堀神保新田ヨリ鎌谷　左面には　南　桒橋ヨリ船橋道その下部に世話人として真木ノ村2名神保新田1人、舩尾村　**香取伊豫守(武士！)**嶋田新田　**村役人**　と刻字。**背面にはこの道標が造立された経緯を刻字**。非常に珍しいです。手前の文字馬頭観音は寛政11年(1799)造立 	珍しく発見しました。木製の社を制作している会社を発見しました。幹線の左側です。見落とさないようmに！おみこしは行徳で制作されている簿は有名です。現在は3，4社程残っているようですが。この工場では大きなものもありますが、屋敷神や小さな社用なのでしょう。おみこしはやっていないそうです 	やはり幹線沿いの左側。前回行った時は草ぼうぼう！その前はきれいに清掃されていましたが。周囲にあったものをこの地に集められたもので全体的に年代は新しいものです。3基

13	14	15	16
木下道1(※木下街道に非ず)	木下道2(※木下街道に非ず)	行々林バス停(おどろばやし)	長唄寺
この道は県道新61号線で、船橋印西線です。木下街道は県道59号線市川印西線です。県道61号線より更に北側の59号線が本来の木下街道です 	 	八千代市内は勿論船橋・鎌ヶ谷・船橋市等地名が読みづらい漢字があります。「おどろばやし」と読みます。船橋市行々林への入口バス停です。桑橋そうのはし・桑納かんのう・神久保いものくぼ・神野かの・・・  	日蓮宗・真要山　長唄寺で昭和37年7月21日の創立。開山は中山泰福寺27世本地院日深です。境内石塔には「真西山長唄院」の名があり、以前に法華経寺院があったのかもしれません。どちらにせよ日蓮宗です

17	18	19	20
長唄寺前の庚申塔群1と23夜塔	長唄寺前の庚申塔群2	長唄寺前の庚申塔群3と23夜塔	阿夫利神社と仙元宮
長福寺前には庚申塔11基(1基3猿のみ、1基　笠付刻像、帝釈天王供養塔2基)、23夜塔2基、佐渡巡拝供養塔1基、裏側に出羽三山巡拝供養塔5基計19基Dす。刻像のみ見ると3猿のみの庚申塔は元文2年(1737)、笠付庚申塔は寛延4年(1751)山状角柱型帝釈天の庚申塔は安永8年(1779)自然石型は大正15年(1927)の造立です。因みに帝釈天庚申塔は日蓮宗徒の庚申塔、猿田彦庚申塔は神徒の庚申塔です。一般的には猿だけ刻像した庚申塔は一番古い型式、刻像はその次、文字塔は基本駅には一番新しい庚申塔の型式になります		23夜塔は2基あります。月待講です。女性の講で子安講とはまた別の講です。佐倉市の地区により月待講はことにしますが19夜講がしゅたいです。上座地区・小竹地区では17夜講が一番古く、次に23夜講そして19夜講が一番新しいものと思われます。それぞれの月待講には神式と仏式の神仏が表されます。所謂**月待講とは、十三夜や十五夜等決まった月齢の日に人々が集まり、神仏に祈りを捧げ、共に月の出を待つ信仰です。それぞれの月夜のには特定の神仏が結びつけられています**	この神社は阿夫利神社で、集会所の中に神様が祀られているのか？境内右側には石碑の大きな阿夫利神社と刻字されたものがあります【気をつけてみてください！台石の石像を)。もちろん神奈川県大山の阿夫利神社を分祀したものですが。他に仙元宮・稲荷明神・聖徳太子等。全くばrたばら」で纏まりのない境内です
			左真四角な石が阿夫利神社です

21	22	23	24
コスモス街道	庚申塔群1	庚申塔群2	庚申塔・月待塔等石仏群
旧道の左側役120M程一面にコスモスが満開にさいていました。奥行きも6，7m程あり晩秋の秋空の中ホッとする旧道でした。次回歩く時には何もなくなっているかも？管理いただく地主様や耕作者の皆様ありがとう！来年もコスモス街道を見させてください 	畑の真ん中にこりゃ～また沢山の庚申塔等石仏が並んでいます。この地に18基の庚申塔と16夜月待塔1基と23夜供養塔2基。併せて21基の石仏が並んでいる。一番最初の石仏は3猿のみ(天和6年・1682造。一番新しいのは自然石のもので昭和7年造です)。**真ん中程にある台座に珍しい3猿が扇子を持って踊っていますヨ！(上部正面には大帝釈天王と深い刻字がされています(文政4年11月造)**。この地は庚申塔と日蓮宗系の大帝釈天系列が混在しています。他に16夜塔1基と23夜塔2基が混在 	 3猿が本題石塔に6猿。土台にさらに3猿・・本体の6猿と土台の3猿は本来別々でのはず 	

25	26	27	28
馬頭觀音兼道標	坂（仮称　子安坂　こやすざか）	子安大明神	軒先の？？？
旧道の分かれ道、どちらの道を行っても台地下に出れますが、道の駅に行くには左の道をとった方が近道です。正面上部には馬頭が。正面真ん中には馬頭観世音　同右側には明治廿八年　北　島田新田　白井道　同左側には四月吉日　右面には萱田道ヨリ大和田　千葉道　差面には　左　平戸橋ヨリ佐倉道　當村〇15町　と刻字 	約170m　7度程。道の駅に下る坂ですが、傾斜は緩く上部の畑地から住宅地を通りながら、ほぼ直角に曲がりながら台地下におります。坂の丁度下の方で妙泉寺の下の道です。坂下の方に子安神社があるので仮称　子安坂と命名しました 	仮称子安坂の途中の左手に子安神社があります。先には道の駅やひよが望めます。地区の女性たちの自身の安産祈願と成長を祈願した神社です。又娘や嫁や孫娘たちへの子安祈願でもありました。江戸時代は家族の発展、稼ぎ手、労力としての子供たちが増えることを願ってでもありました。この神社の創立年は不詳ですが、新しい物と思われます(明治・大正・昭和か？)鳥居は平成15年造です 	軒先の白い物何ではしょうか？単純に吹き込んだ雨が入らないように詰めたものか?しかし、他の場所にはなし。病魔等が家に入らないようにしたものか？他の家にも見かけない・・・・

29	30	31	32
新川1	新川2	八千代道の駅1	八千代道の駅2
     	 	 平成9年7月20日　八千代ふるさとステーション開館。平成25年4月　やちよ農業交流センター会館、平成27年4月　新川にふれあいの農業の郷歩道完成しました 	

33	34	追加7　No1群　2	追加8　No2群　2
米本団地バス停付近1	米本団地バス停付近2	秀明学園バス停前庚申群　No1－2	秀明学園バス停前庚申群　No2－2
旧日本住宅公団造成のUR賃貸住宅で、昭和45年入居開始。住宅棟106棟・管理戸数3020戸です。なお八千代台団地には、**「協会八千代台団地」と「公団八千代台団地」の２つあり**時に誤解が発生しています。**前者は千葉県住宅協会が開発し昭和40年入居、後者は日本住宅公団(都市再生機構)]で平成16年入居開始。八千代台駅前の「住宅団地発祥の地」記念碑は前者**の事を意味する。			